

寂光院だより

令和元年 8 月 1 日

繼鹿尾観音 寂光院

〒484-0091 犬山市繼鹿尾山

TEL(0568)61-0035

三十三に姿を変える

山主 松平實胤

地獄と浄土

日本人の大半は仏教徒です。しかし、その仏教徒に「地獄の反対語はなんですか」とお尋ねすると、ほとんどの人が「天国」とお答えになります。これでは〇点です。また「極楽」とお答えになる方があれば、その方には五〇点くらい差し上げましょう。正解は「浄土」です。

浄土とは「仏国土（ぶつこくど）仏さまのお住まい」という意味ですから、仏さまの数だけ浄土があります。たとえば一番有名なのは阿弥陀如来のお住まいである「極楽浄土」でしょう。西方十万億土という途方もない遠い宇宙に存在するのです。鎌倉時代から戦国時代にかけて阿弥陀信仰が盛んになり、死後極楽浄土に生まれ変わる（極楽往生）ことを願う人々が猛烈に多くなった



千手観音二十八部衆像
(犬山市文化財指定)

ので、浄土と言えば極楽浄土の代名詞にすらなってしまったのでしょうか。しかし、しよせん極楽もまた浄土の一つにしか過ぎません。薬師如来は東方にある「浄瑠璃（じようるり）浄土」、釈迦如来は「靈山（りようぜん）浄土」といって、お釈迦様がよく説法された場所、「靈鷲山（りようじゆせん）」がお浄土です。

ちなみに天国はユダヤ教、キリスト教、イスラム教の「神の国」のことです。ですから、仏教徒は絶対に天国には行けません。死後天国に往きたい方は、今のうちに洗礼などの儀式を受けて信徒になることです。

観音様のお浄土

さて、観音様のお浄土は「補陀落（ふだらく）浄土」です。場所は南インドの海辺にあるとされるポーターラカという山で、それを音写して補陀落山とよんでいます。

実はもともと観音様の故郷は「西方極楽浄土」です。「弥陀三尊」と言えば、阿弥陀様を真中にして、向かって右が観世音菩薩、左が勢至菩薩です。もともと観音様は阿弥陀様のおそばに仕えておいでになった菩薩様です。観音様ほどになられますとほとんど如来様と同格ですが、まだ自分の回りに苦しみ悩む人が一人でもいる限り、私は如来の座に自分といとお誓いになられて、さらに自分を高める修行（自利行）を続けながら、自分以外の人々を幸せにするた

めの修行（利他行）をお続けになる方です。しかし、阿弥陀様にお仕えしていても、極楽浄土にいる方は皆仏さまですから修行にはなりません。そこで十万億土離れた娑婆世界（我々の住むこの世界）には苦しみ悩む人が沢山いることを聞き、阿弥陀様に願ひ出て、この娑婆に降りておいでになったのが観音様です。

観音様は無限に姿を変える

観音とは観世音の略です。世間の人々の「喜び悲しみ苦しみ悩み」の声を聞き漏らすまい、声なき声を見落とすまいと、観音様のお住まいの補陀落山の頂上から世間の人々の声（音）を観察しておいでになるのです。自分を必要とする人々が沢山いれば、瞬時に無差別に平等にお救いになれるのです。相手が赤ちゃんであれば、赤ちゃんに姿を変え、子育てに悩むお母さんには、自分もそのお母さんの姿に変え、まさにそれぞれに一番ふさわしい姿をとって駆け付けられるのです。決して自分が観音様だとはおっしゃいません。

お経の中には三十三に姿を変えると出てきますが、インドでは三十三という数字は無限を意味します。この世に七十六億の人あらば七十六億とおりの姿に変えるということです。

西国三十三観音霊場とか坂東三十三観音はそこからでた数字です。

ちなみに寂光院は尾張三十三観音霊場第二十番のお札所です。